

## 道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2012年9月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、9月12日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「厳しい状況にあるものの、一部で持ち直しの動きがみられる」としました。この基調判断は4か月連続となります。最大の需要項目である個人消費（観光を含む）は全体として持ち直しています。大型店の売上高は横這い圏内で推移しています。自動車販売は政策効果（エコカー補助）等を背景に堅調に推移しています。観光はインバウンド・道外観光客の持ち直しに伴い、持ち直しの動きが続いています。設備投資は下げ止まっています。一方、公共投資は低水準で推移しています。住宅投資は持ち直しの動きに一服感がみられています。この間、雇用情勢は労働需給面を中心に改善の動きが続いています。生産は強弱区々の動きとなっています。農作物の作柄は水稲、畑作とも総じて良好です。

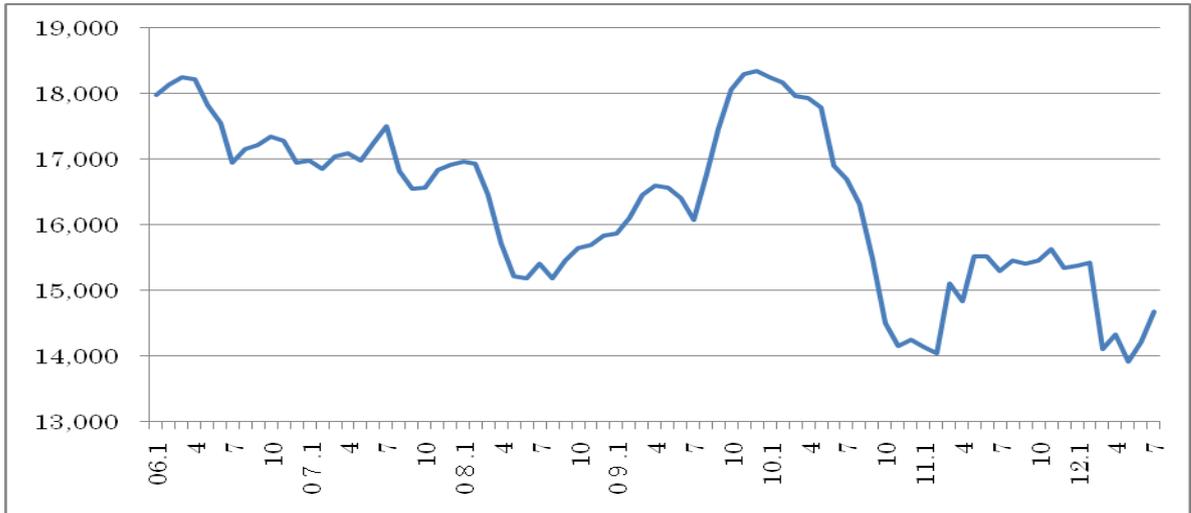
道北地域の景気は一部で持ち直しの動きがみられていますが、個別にみると以下の通り、強弱材料またはリスク要素がみられており、全体として改善のテンポは緩やかです。まず、観光ではインバウンド観光客は台湾を中心に全体では持ち直しの動きが続いてきたほか、道外観光客も機材大型化の効果もあって持ち直しています。また、農作物については、今年天候に恵まれ、水稲・畑作とも作柄は総じて良好であり、先行き農家所得の増加が期待されます。一方で、ウエイトの高い公共投資は低水準で推移しています。復興関連需要については、新規求人の増加等のルートを通じて間接的に波及してきていますが、道北地域における直接的波及効果は限定的です。自動車販売は、先行きエコカー補助切れ後の反動減が予想されています（ただし、インパクトについては幅をもって見る必要があります）。インバウンド観光客については、竹島・尖閣問題の影響が今後の懸念材料です。全国の景気は内需の堅調に支えられて緩やかに回復していますが、先行き公共投資の寄与度が減衰していく中、世界経済の減速が長引けば下方に屈折するリスクがあり、そうしたリスクが顕現化した場合には、道北地域の景気にも観光や製造業その他様々なルートを通じて悪影響が及ぶ可能性があります。

以下、基調判断の背景について、やや詳しく説明します。

公共投資は低水準で推移しています。7月の公共工事請負金額をみると、目立った案件としては丸瀬布の養護老人ホーム改築等工事（666百万円）程度ですが、細かい案件の積み重ねで3振興局ともに増加し、全体でも2か月連続で増加しました（前年比：+28.3%、2012/4～6月+2.4%）。振れを均すため後方12か月移動平均でみると、下図の通りなお低水準です（ちなみに、2012/1～7月では△6.7%）ので、基調判断は据え置きました。なお、2011年度第4次補正予算で予算手当てされた農業体質強化基盤整備促進事業の発注が散見されており、収穫後に工事が集中することが見込まれています。それでも全道（公共工事請負金額は新幹線関連工事の本格化を主因に4月以降増加が続き、下げ止まっている）に比較すると、相対的に動きは鈍くなっています。

【道北地域の公共工事請負金額推移（後方 12 か月移動平均）】

百万円



次に、消費・観光です。

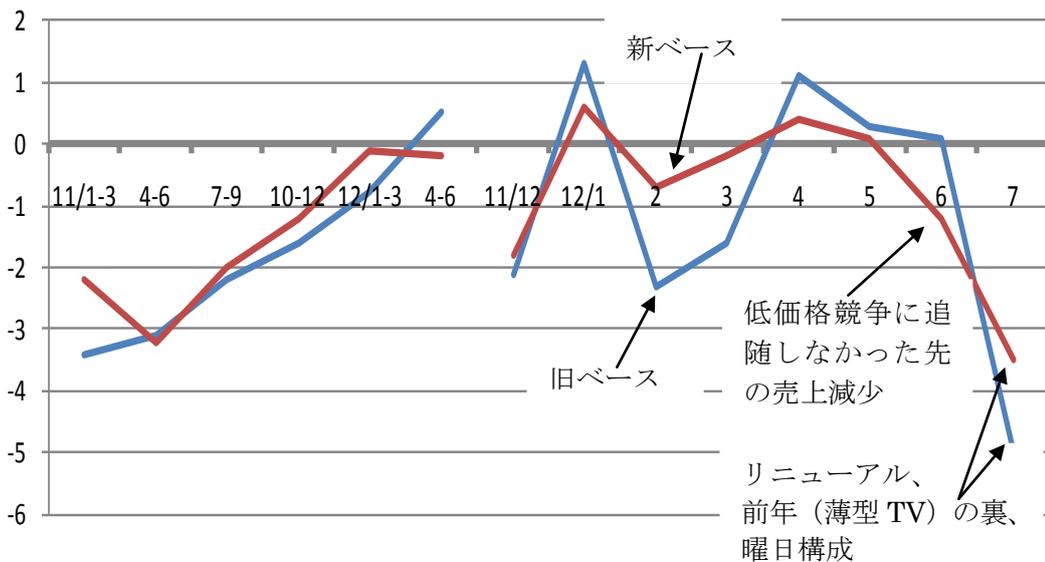
- ここで言う観光には、消費に計上されるもの（道北地域に住む人の観光関連支出）のほか、移輸出に計上されるもの（道外、海外等から当地を訪れた観光客が当地で使った観光関連支出）を含んでいます。

まず、大型店売上高は、横這い圏内の動きとなっています。

当月から調査対象先を増やしました（旧ベースは 5 社 12 店舗、新ベースは 7 社 46 店舗。2011 年売上高でみると、旧ベースは 579 億 55 百万円、新ベースは 1,102 億 40 百万円）。

【道北地域の大型店売上高推移】

前年比・%



両者を比較すると、サンプル拡大の効果から新ベースの方が振れは小さくなっています。

以下、新ベースに沿って評価を行い、必要に応じて旧ベースとの違いについて補足説明します。

7月については $\Delta 3.5\%$ の減少となりました。これは、前年（薄型TVがアナログ放送終了前の駆け込み需要から大幅に増加）の裏で家電が大幅に減少したこと、一部調査先がリニューアルを実施したこと（両者で前年比を $1.6\%$ 押し下げ）、および曜日構成上、今年は昨年に比べ土曜日が一日少なかったこと、という特殊要因によるものであり、これらを除けば横這い圏内であったとみられます。内訳別には、食料品は総じて底堅かった一方、衣料品が紳士服、婦人服ともに減少しました。百貨店における夏物のセール商戦が開催時期の分散化に伴い盛り上がりを欠いた（店自体は月初からセールを開始したものの、出店している一部ブランド店では月央から開始）ことも衣料品が減少した一因になっています。また、家電が大幅に減少しました。8月は、一部（レジャー関連、涼味類やおみやげ）で動意がみられたものの、お盆以降の猛暑に伴い秋物衣料の出足が鈍くなっています。

ちなみに、旧ベースではプラスであった6月が新ベースではマイナス（ $\Delta 1.2\%$ ）となっています（この結果、2012年4～6月の前年比も旧ベースではプラスのところ、新ベースではマイナスとなりました）。これは、スーパーの低価格競争が激化する中、新しくサンプルに加わった調査先中に、低価格競争に追随しなかったことに伴い、6月に大きく売上げを落とした先が含まれていたことによるものです。これによる特殊要因を除けば、6月は横ばい（4～6月では若干のプラス）であり、新旧ベースでほぼ同じ動きとなっています。

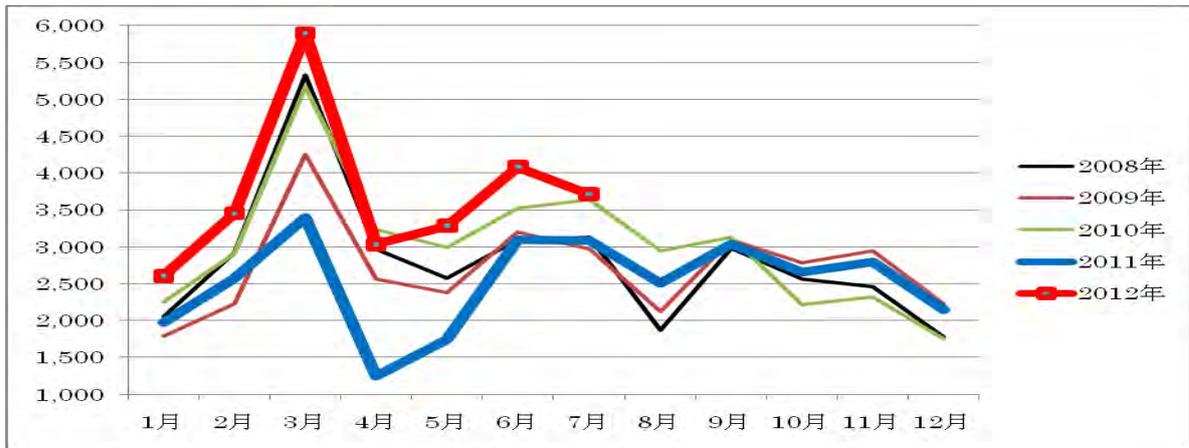
—— なお、当事務所の調査対象先に含まれるディスカウント形態の店舗の数は少ないため、新旧ベースともに6、7月の数字はやや低めに出ている可能性があります。

次に、自動車販売は引続き堅調に推移しています。2012年7月の新車登録台数は、政策効果（エコカー補助）等から、引続き大幅に増加しました（前年比： $+20.5\%$ 、前々年比： $+1.9\%$ ）。7月の新車登録台数はエコカー補助終了前の駆け込み需要が本格化し、自動車販売が堅調であった前々年をわずかに上回っており、高水準です。ただし、前年の自動車販売が自動車生産の回復に伴い回復したことや、駆け込み需要が事前の想定程大きくないことから、前年比伸び率は次第に低下（5月 $+88.1\%$ →6月 $+31.7\%$ →7月 $+20.5\%$ ）しており、勢いは鈍化しています。先行きは、10月以降に予想されている駆け込み需要の反動減の大きさに注目しています。

—— 駆け込み需要の反動減の大きさについて、ヒアリング情報では「駆け込み需要が想定程大きくないのは最終需要が弱いためであり、補助金終了後は大きな反動減があることを予想している」との見方もありますが、「反動減はある程度あっても、車の保有期間の長期化に伴う買い替え需要やガソリン価格の上昇に伴う低燃費車への関心の高まりがみられる中、燃費を訴求した新車投入も相次いでいることから、前回（2010年9月に補助金切れ。2010年10～12月 $\Delta 20.9\%$ ）程の落ち込みはないのではなか」との見方の方がやや強くなっています。

### 【道北地域の新車登録台数推移】

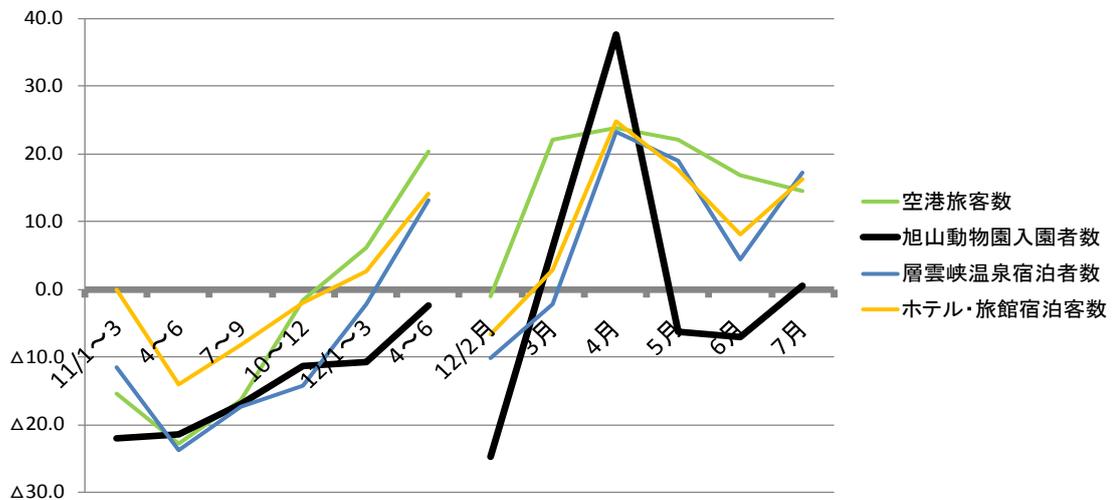
台



最後に、観光です。観光は全体として持ち直しの動きが続いています。四半期でみると、2011年4-6月を底に、次第に持ち直してきています。7月は旭山動物園を含め、各指標とも前年比プラスとなりました。

### 【道北地域の観光動向】

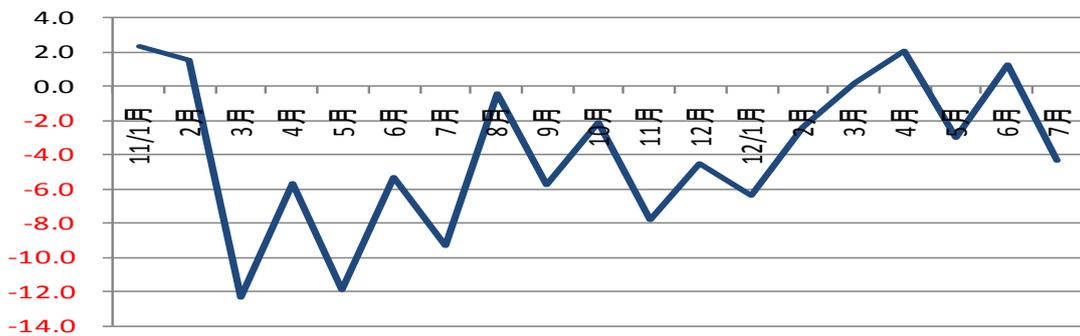
前年比・%



この間、尖閣諸島問題（2010年9月）や震災（2011年3月）の影響を取り除いた実勢を判断するために、旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前々年差の推移をみると、下図の通り、7月は2か月振りにマイナスとなりました。4月まで順調に回復した後は、一進一退の動きとなっています。

宿泊単価については、かなり戻ってきていますが（とりわけ、8月）、一部で「まだ震災前の水準に及ばない」としている先もあるなど、バラつきがあります。

【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の前々年差推移】 %ポイント



7、8月については、「8月は予想以上によかった。インバウンド客が大幅に増加し牽引した」（旭川市内のホテル）という声が聞かれた一方、「インバウンド客の増加等もあって悪くはなかったが、東京スカイツリー人気やロンドンオリンピックのためか、道内客は減少し、期待した程でもなかった」（富良野のホテル）とか、「お盆明け後は道内客中心に失速し、盛り上がりには欠けた」（層雲峡のホテル）との声も聞かれました。この間、旭山動物園は7月（+0.6%）に3か月振りに増加した後、8月（△6.1%）は再び減少しましたが、これまで（2010年度△16.3%、2011年度△16.4%）に比較すれば、減少幅は縮小しています。

9月以降については、「例年8月末から観光客がぱったり途絶えるところ、今年は予約が五月雨的に入ってきている」（富良野のホテル）とか「9月15～17日の食ベマルシェの期間はすでに満室。その後も10月にかけてイベントが予定されており、出足は好調」（旭川市内のホテル）、「インバウンド・道外客の予約は昨年を上回るペース」（層雲峡のホテル）という声が聞かれており、昨年の同時期よりも立ち上がりはよいようです。ただ、「間際の予約が定着したこともあって道内客の動向がまだ読めない。東京スカイツリー人気の影響から減少することを懸念している」（層雲峡のホテル）との声も聞かれています。

観光客別には、インバウンド観光客は台湾が引き続き増加しているほか、タイも海外旅行ブームや市等における観光誘致策の効果もあって、ウエイトは低いものの着実に増加しているとの声が聞かれています。7月以降、韓国や台湾の路線も新規就航しました。竹島・尖閣問題については、「道北地域においては中国・韓国の観光客のウエイトが低くさほど影響はない」（層雲峡のホテル、富良野のホテル）ということで冷静な受け止め方をしている先があった一方、「問題が発生した翌日に、早速中国・韓国観光客のキャンセルがあった」（旭川市内のホテル）との声も一部で聞かれました。尖閣3島の国有化を巡る動き等、その後も事態は進展しており、観光に与える影響の大きさについては今後とも注意深くウォッチしていく予定です。また、道外客は昨年の自粛ムードの反動や機材大型化の効果などから緩やかに持ち直しています。一方、道内客は、昨年の反動から道外に目が向いていることもあって、やや弱めの動きをしています。

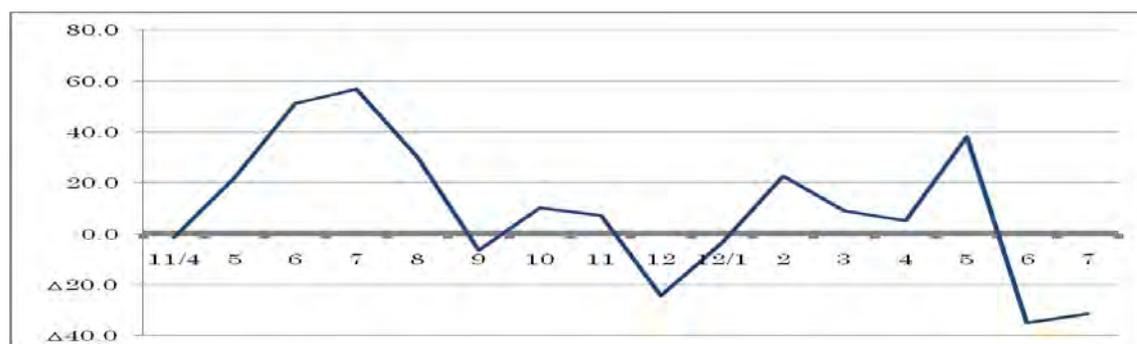
7月の新設住宅着工戸数は、大幅に減少しました（△31.4%）。7月の大幅減少は、昨年7月が住宅エコポイント終了前の駆け込み需要で大幅に増加した（+56.9%）ことの裏によるものであり、前々年比では増加（+7.6%）となっています。従って、基調判断としては、昨年夏場にかけての住宅エコポイント終了前の駆け込み需要で大幅に増加した後、その後は「持ち直しの動きに一服感がみられる」で変わりありません。

—— 前月、「前年の水準が8月頃まで駆け込み需要から極めて高くなっていますので、前年比の数字を解釈する上では今後も留意が必要です」とコメントした通りです。

7月までの数字をみる限り、消費税率引き上げ（2014年4月に8%、2015年10月に10%）前の駆け込み需要はさほどでもないようですが、ヒアリング情報では「最近契約した案件中にも駆け込み需要とみられる事例が散見されている」との声も聞かれているところであり、前年の裏要因による減少が一段落した後はプラスに転じる可能性があります。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】

前年比・%

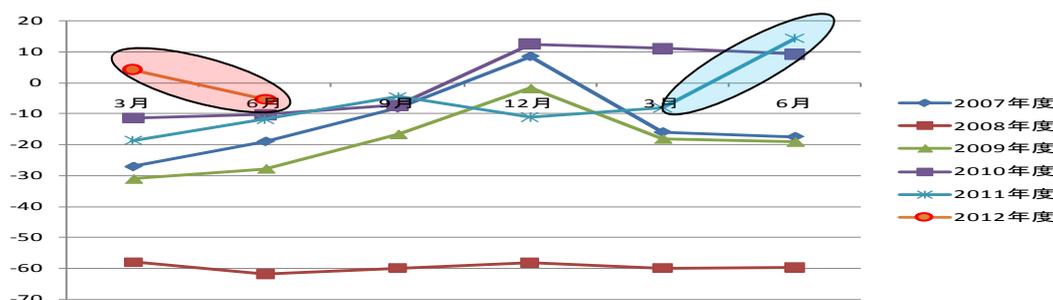


設備投資は、下げ止まっています。

道北地域の「企業短期経済観測調査」（2012年6月調査）における2011年度の設備投資実績は、3月調査比大幅な上方修正（+24.3%）となり、+14.4%と増加に転じました。2012年度設備投資計画は、3月調査比上方修正（+13.0%）となりました。前年比では2011年度実績の大幅な上方修正に伴い、△5.2%と減少しました。今回、2011年度、2012年度とも設備投資は上方修正されており、低水準ながら足もとしっかりした動きとなっています。

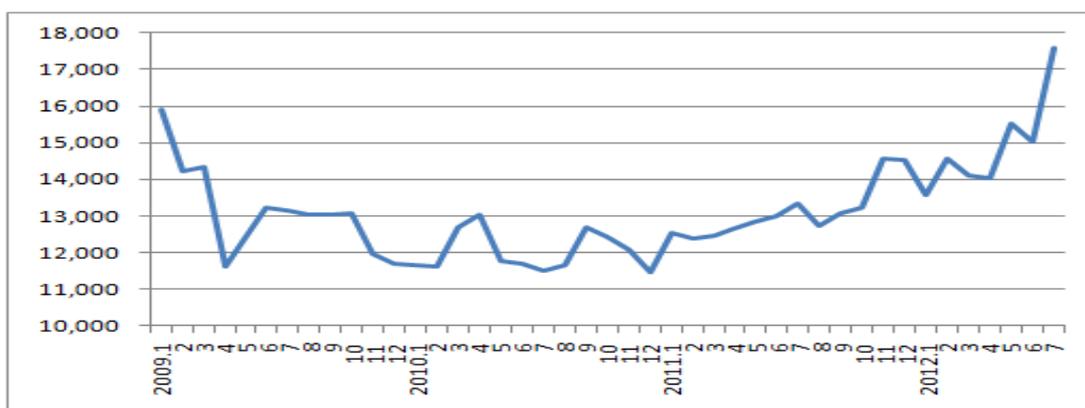
【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】

前年比・%



参考までに、設備投資と関連性がある建築確認申請床面積（非居住用）をみると、7月は北見市における病院の建築等により大幅に増加しました。振れを均し、季節要因を調整するために12か月後方移動平均でも、下図の通り、2011年以降、着実に持ち直し、2009年初の水準を上回っています。

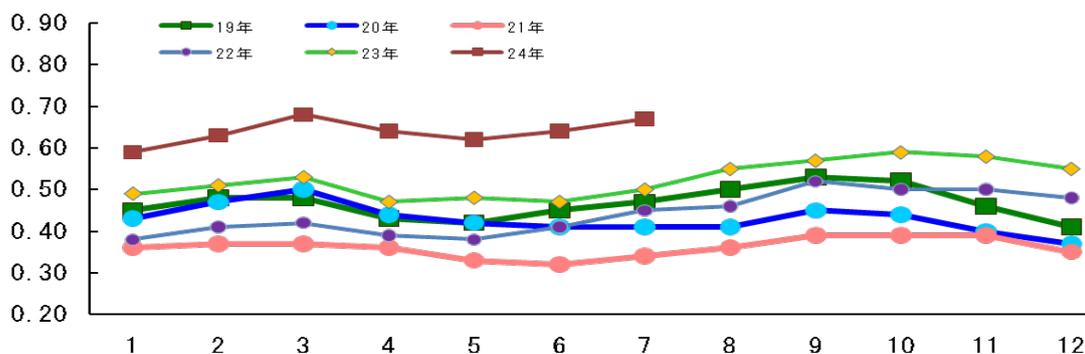
【主要4市の非居住用建築確認床面積推移（後方12か月移動平均）】 m<sup>2</sup>



雇用情勢は、労働需給面を中心に持ち直しの動きが続いています。

労働需給は改善しています。7月の有効求人倍率は、4地区すべてで前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、前年を上回る状態が続いています。7月の旭川地区における新規求人数は+13.7%と、4か月連続で2桁の増加となりました。内訳をみると、ウエイトの高い社会保険・社会福祉・介護（前年比：+30.1%）が堅調なほか、建設業（同+54.7%）も高い伸びが続いています。また、当月は製造業（同+52.1%）が高い伸びを示し、宿泊業・飲食サービス業（前年比：+10.2%）も引続き増加しました。この間、新規求職者数は総じて落ち着いた動きとなっています（旭川地区の7月：△5.4%）。このように雇用情勢面では改善の動きが続いていますが、雇用・所得環境を判断する上では、求人・求職間のミスマッチ（7月の旭川地区のホームヘルパー・ケアワーカーの有効求人倍率は1.56倍と求人超となっている一方、一般事務員は0.17倍）や厳しい所得環境（国家公務員や独法等で大幅な給与削減。夏期賞与も減少見込み）を割り引いてみる必要があります。

【旭川地区の有効求人倍率推移】 倍



製造業は、強弱区々の動きです。製材の生産は円高に伴う輸入材との競合を主因に5か月連続で減少しました。広葉樹は増加の一方、ウエイトの高い針葉樹が一般製材における輸入材（ホワイトウッド）との競合を主因に減少しています。合板の生産は減少しましたが、手間のかかる高付加価値品へのシフトが主因であり、実態的にはフル生産が続いています。紙・パルプは、情報用紙が増加したほか、雑種紙（紙器）が稼働率向上のため一部製品を輸出に振り向けたこともあって増加しました。電子部品関連は、新製品の作り込みの終了から当月は減少に転じました（合板は6月、その他は7月計数に基づいて記述）。

農作物（9月1日現在）は、天候に恵まれ（8月中は後半にかけて好天の日が続き、気温も上昇）、作柄は良好です。まず、生育状況については水稲（うるち）、畑作（豆類、たまねぎ、てん菜、とうもろこしなど）ともに平年並みとなっています。また、作柄については、水稲（うるち）の穂数は平年比108%、水稲（もち）の穂数は同122%、畑作も馬鈴しょの上いも数は同106%（以上は上川総合振興局調べ）、小豆の着莢数（ちゃつきょうすう）は同115%、大豆の着莢数は同86%、てんさいの根周は同99%（ただし、収量は増加の見込み）、たまねぎの球径は同104%、（以上はオホーツク総合振興局調べ）などとなっており、大豆を除けば総じて良好です。

道北地域は農業が基幹産業の一つであり、先行き農家所得の増加を通じ、道北地域の景気を下支えすることが期待されます。

7月のオホーツク漁業は、数量面ではすけそう、ほっけ、ほたてが増加した一方、かれいとは大幅に減少しました。金額面ではすけそう、ほっけが増加しましたが、単価の高いかれいが大幅な減少となったほか、ほたても減少となりました。この結果、全体（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）では、数量は増加（+17.7%）した一方、金額は減少（△9.2%）しました。

その他の動きについては、[金融経済概況](#)をご覧ください。

なお、消費の項目で説明しました通り、7月の大型店売上高の計数から調査対象先を増やしました。この結果、売上高ベースのカバレッジは約2倍となりました。的確な景気判断のためには、統計の質（速報性、正確性、カバレッジ）の向上と、数字の動きの背後にある実態の把握が欠かせません。道北地域の金融経済概況の作成にあたっては、毎月多くの企業や官公庁、金融機関等の関係者の方々に、計数の提供やヒアリングにご協力いただいています。この場を借りまして改めて深く御礼申し上げますとともに、今後とも的確な景気判断に努めて参る所存ですので、引続きよろしくお願ひ申し上げます。

2012年9月12日

荒木 光二郎